

空には雲が多めながらも久しぶりの日差しが届きました。今月は九州や中部で川が氾濫するなど例年のない大雨が降り続く中、梅雨の中休みの一日となり平和公園には終始気持ちのいい風が吹いていました。

持ち込み観察項目：オオアオイトトンボ、ヒメアカネ

里山の家の前ケヤキの下に幼虫の大きなフンが無数に落ちていました。ケヤキを食べるウンモンズズメのものと同様と予想していたところ、地面を這っている大きな幼虫を見つけた男の子がいました。参加者の一人から蛹になるため木から降りて来たのだらうとの説明がありました。大坂池の横の広場ではクモの子のまどいがうごめていました。久しぶりに雨が止んだので、このあとお尻から糸を出して風に乗って飛んで行こうとしているのだらうということでした。その足元の草にはニイニイゼミの抜け殻が見つかりました。



ウンモンズズメの幼虫のフン



クモのまどい



ニイニイゼミの抜け殻

オタマジャクシ池の脇にミソハギが咲いていました。この日は雨上がりのせいかキノコがたくさん見られ、その付近ではキノコに詳しい参加者からヤマドリタケモドキとヘビキノコモドキを教えてくださいました。



ミソハギ



ヤマドリタケモドキ



ヘビキノコモドキ

中道沿いに生えていたキノコを裏返すとひだの中に3mmにも満たない小さな昆虫が無数に入り込んでいるのが見えて、写真に撮って拡大したところハネカクシとわかりました。キノコを食べているようです。近くのアベマキの葉を裏返すと、孵化したてのガの幼虫がたくさん見つかりました。これから孵化する卵もありました。畑のそばでカヤツリグサ科のヒメクグとメリケンカヤツリを比べて見ました。ヒメクグは在来種で、外来種のメリケンカヤツリとの違いは茎の先端についている穂の数で、ヒメクグは穂が一つだけついていました。



キノコのひだの中のハネカクシ



ガの幼虫と抜け殻の卵



ヒメクグ

子どもたちがプラスチックケースを持って、しきりに中の匂いを嗅いでいました。ケースの中入っていたのはゴミムシの仲間、とても美しい色と模様をしていました。その場では種名がわからず、もしかしたら珍しい種かもしれないという人がいました。ジュズダマが欲しいという女の子がいたので、つどいの丘へ渡る橋のところまで一緒に花を見ました。大人の参加者から実が採れるのは秋頃なのでそれまで待とうね、と教えられていました。シンジュの木には実がついて細長い実の中に一つずつタネが入っているのを見えました。



ゴミムシの仲間



ジュズダマの花



シンジュの実

アベマキの下で、その幹についているガを探そうという提案があり、みんなで目を凝らして観察しました。すぐに見つける子どももいれば、なかなか見つからない大人もいました。見つかったのは**マメキシタバ**と**コシロシタバ**でした。コシロシタバは同じ木に2頭とまっていた。どちらもシタバガというグループのガで、下の翅には目立つ模様がありますが、翅を閉じていると目立たず幹の模様になじんで見えました。



シタバガを探す



マメキシタバ



コシロシタバ

田んぼのイネの葉にはところどころ食べられた痕があり、主にはイナゴの仕業であるとの説明がありました。そして**イナゴの幼虫**がすぐにあちこちで見つかりました。水中に仕掛けたワナを引き上げると、**アメリカザリガニ**がたくさん入っていました。その他よく太った**マドジョウ**が入っていて、取り出してケースに移すと子どもたちが先を競ってケースに手を入れていました。でもうまくつかめずケースから外に落としてしまう子もいました。



イナゴの幼虫



ワナにかかったアメリカザリガニ



ワナにかかったマドジョウ

参加者の一人が田んぼの中から**マツモムシの仲間**を網ですくいました。マツモムシより一回り小さくこの観察会では初めて見る昆虫でした。マツモムシは水面を仰向けになって泳ぎますが、これは水中にもぐって泳いでいたそうです。若い参加者が**ネトクワガタ**を捕らえてきて子どもたちに見せるとみんな興味津々でのぞき込んでいました。東山の森では普通に見られるとのことでした。キノコに詳しい参加者がリング状の模様が目を引く**ニオイワチチタケ**を紹介しました。注目すべきは特徴的なその匂いで誰が嗅いでも「カレーの匂い」とわかりました。



マツモムシの仲間



ネトクワガタ



ニオイワチチタケ

カエルの大好きな少年が、身体が透明な**ヌマガエルのオタマジャクシ**を網で捕らえました。以前からこの田んぼの周辺で見つけていましたが、今年は出会えず心配していたそうです。終了の時刻が近づき、里山の家へ向け戻る途中の水辺で**ガマ**を見ました。円柱状の茶色い穂がたくさんついていました。中道を歩いているところへ飛んできた**ヤマトタマムシ**を参加者が捕らえ、その美しい姿に歓声が上がリ、みんなでしばし見とれていました。



ヌマガエルのオタマジャクシ



ガマ



ヤマトタマムシ

平和公園での観察項目（観察順）：ドロバチの巣、ウンモンズズメの幼虫のフン、ウンモンズズメの幼虫、羽アリ、キマワリの死骸、カダヤシ、ヤマトリタケモドキ、ヘビキノコモドキ、ミソハギ、クモの子のまどい、ニイニイゼミの抜け殻、オオシオカラトンボ、キノコ、キアシナガバチ、イセノナミマイマイ、ワラジムシ、イグチタケ、キノコにつくハネカクシの仲間、ゴミムシの仲間、アオスジアゲハ、オオミスジコウガイビル、オチバタケ、ダンゴムシ、ジョロウグモ、ガの卵と初齢幼虫、ソシンロウバイの偽果、カヤツリグサ、ヒメクグ、ショウリヨウバッタ、サルトリイバラ、マメキシタバ、コシロシタバ、エビの仲間、ジュズダマの花、シンジュの実、ウラギンシジミ、田んぼにしかけたワナ、トリゲモ、イナゴの幼虫、コナギ、マツモムシの仲間、アメリカザリガニ、マドジョウ、ネトクワガタ、ニオイワチチタケ、ヌマガエルのオタマジャクシ、ガマ、ウグイスの声、ヤマトタマムシ、ヤブキリ